



走る

第3回

信州安曇野 ハーフマラソン

600人のボランティアが
支えるレース

午前9時の号砲。5802人のランナーの熱気と歓声は大きなうねりとなり、堰を切ったかのように一斉に広がります――。

第3回信州安曇野ハーフマラソン（実行委員会主催・信濃毎日新聞社共催）が6月4日、豊科南部総合公園を発着点にスタート。雄大な北アルプスを背景に、早苗が映える田園風景、世界かんがい施設遺産に登録された拾ヶ堰沿いなどを駆け抜けました。また、昨年の大会から始まった「ファミリーラン」の部には、大人と子ども計282組が参加。それぞれのペースで2キロのランニングを楽しみました。

沿道からは大勢の皆さんが小旗を振ってランナーを応援。スタート時の消防団音楽喇叭隊の演奏、コース途中に設けられた応援ポイントでは和太鼓やオカリナ、よさこい演舞などが行われ、ランナーを励ました。また、運営ボランティアとして市民など約600人の皆さんが、コース整理や給水などを行い、安曇野を走るランナーの皆さんをそれぞれの「おもてなしの心」で支えました。

①豊科南部総合公園のスタートラインに待機するランナー達。
②号砲と共に一斉にスタート。③ファミリーランのスタート。
④スタート前から第1給水所の準備を行う。⑤たくさん声援を浴びて疾走。⑥折り返し付近。世界かんがい施設遺産「拾ヶ堰」沿いを爽快ラン。⑦ボランティアの水かけ。気温も次第に上がる。あともう少し！⑧仮装ランナーの姿も。思い思いにランを楽しむ。



支える